

カンボジアの中の日本

学 校 名：大阪府立八尾北高等学校 指導時数：4 時間
 名 前：金沢 幸恵（英語） 対象学年：高校2年生
 実践教科：英語Ⅱ 対象人数：24 人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

教師海外研修は、開発途上国であるカンボジアを訪問し、国際協力の現場やそこでの日本との関係に理解を深めることのできた貴重な時間であった。事前研修では授業に役立つ手法を学ぶことができ、また現地の学生との交流内容を組み立てていく過程で、研修への期待がどんどん膨らんでいった。いざカンボジアでの視察が始まると、事前に学習してきた以上の現実を目の当たりにして、帰国後この経験を生徒に伝え、学びの場にしたいと強く思い授業を実施した。生徒も非常に興味を持って授業に参加しており、国際協力について考察する機会となったようだ。今回の研修をきっかけに、開発教育や国際理解教育への学びを深めていくとともに、生徒、学校、地域へと学びを広げていけるよう尽力したい。

2. カリキュラム

（1）実践の目的・背景

カンボジアを通して開発途上国の理解を深めるきっかけにする。また、異文化を知ることで、自国、また自分自身を振り返る機会にもする。

そこで、1時限目はカンボジアへのイメージを引き出すことで、帰国後の学習への興味を駆り立てる。2時限目は、実際に見て感じたカンボジアを伝えることで、新たな気付きと以降の学習を深めるきっかけとする。3時限目は生徒が特に興味をよせた「地雷」について学習する。現地の人々が国のために力を尽くしていること、さらに日本人も活躍していることも伝える。4時限目は、異なる分野で活躍する日本人を紹介しながら、日本は援助するだけでなく、援助される側でもあることを気付かせる。生徒と現地の学生の「大切なもの」が何年も継続していく世界になるために、一人一人になにができるのか考えさせる。

（2）授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 カンボジアって どんな国？ ＊カンボジアのイメージは？ ＊『大切なもの』を考える。	① 5～6人のグループを編成する。 ② 地図上でカンボジアの位置を確認する。 ③ カンボジアについて知っていることやイメージなどを自由にブレインストーミングで出し、班ごとに発表する。 ④ 画用紙に『大切なもの』を描く。 ⑤ 動画で撮影する。	● 世界地図 ● 白地図

2 時限目 カンボジアって こんな国！ *カンボジアの風土や文化を知る。	① 5～6人のグループを編成する。 ② グループ毎で、フォトランゲージ・モノランゲージを実習し、気付いたことをまとめる。 ③ 感想を記入する。	●写真（パワーポイントを含む） ●カンボジアで入手したモノ ●動画 ●教材プリント
3 時限目 地雷撤去 *アキ・ラー氏、CMACの活動を通して、地雷撤去の現状を学習する。 *地雷に関連して、現地で活躍する日本人を知る。	① モノランゲージで、地雷の模型を使用する。 ② アキ・ラー氏に関する英文読解により、彼についての知識を深める。 ③ 現地で入手した DVD 映像を見せる。 ④ CMAC の活動を紹介し、視察に行った際の映像を見せる。 ⑤ 「地雷」に関連して、現地で活躍する日本人を紹介する。 ⑥ 感想を記入する。	●写真（パワーポイントを含む） ●地雷の模型 ●現地で購入した DVD・教材プリント
4 時限目 カンボジアで活躍する日本人 *カンボジアで活躍する日本人を紹介する。 *持続可能な開発について考える。	① モノランゲージで1枚のハンカチを見せる。 ② 写真と動画を使用して、IKTT（クメール伝統織物研究所）と森本喜久男さんを紹介する。 ③ ワット・ボー小学校で音楽を教えていらっしゃる田中千草さんについて紹介する。 ④ 現地学生の「大切なもの」を見せる。 ⑤ 持続可能な開発とは何かを考える。 ⑥ 感想を記入する。	●IKTT 伝統の森にて染色体験をしたハンカチ ●写真 ●動画

3. 授業の詳細

1 時限目：カンボジアってどんな国？

ねらい…カンボジア学習を進めていくにあたっての準備として、教師海外研修前に授業を行うことで、カンボジアへの興味を持たせる。

◆内容◆

- ① 3グループに分かれ、東南アジアの白地図を使用し、対抗ゲーム風に国名を答える。
- ② カンボジアと聞いて考えつくものを各グループ毎にブレンストーミングし、発表する。
- ③ 「大切なもの」を画用紙に描く。

👉👉がポイント！

「大切なもの」は現地の学生との交流の際に使用する目的と、これからの学習に対して生徒が積極的に参加するきっかけとする目的がある。



「大切なもの」を描く生徒たち



位置確認クイズで使った白地図

生徒の
反応

自分たちが描いた「大切なもの」に対して現地の学生がどんな反応をするのか、また学生たちの「大切なもの」はどのようなものなのかを楽しみにしている様子だった。

◆所感◆

本年 12 月にマレーシア修学旅行を控えており、同じ東南アジア諸国ということも関連付けながら 1 限目の授業を終えた。ブレンストーミングでは、学校を建設した芸能人の名前、貧しい国だというイメージ、道路が舗装されていない、戦争、地雷、児童労働という言葉が多く聞かれた。メディア等を通して想像していた以上に情報を蓄えている生徒の反応に驚いた。また日本とカンボジアとの位置関係、気候、風土、食事などに関心を持っている様子であった。

2 時限目：カンボジアってこんな国！

ねらい…イメージしていたカンボジアと実際の様子を比べての気づきを大切にするとともに、写真や物を通してカンボジアがどんな国なのかを知る。

◆内容◆

- ① 3 グループに分かれる。
- ② ビンゴゲーム形式で、ブレンストーミングで出てきたカンボジアを表すような写真やイメージになかった写真を見せる。
- ③ 現地で入手した物を使用して、モノランゲージを実習した。
使用した物は、クロマー・新聞（交通事故の記事）・子どもから購入した笛・蓮の実・胡椒の実・牛革の装飾品である。解説する際には、写真や動画を使用した。（資料 1 参照）
- ④ フォトランゲージを実習した。使用した写真は、高床の家・しかけ（蛙）・識字教室・ゴムの木のプランテーション・料理・地雷撤去現場にある看板である。（資料 2 参照）

生徒の 反応

次々に映し出される写真に関心を寄せていた。また、初めて見る蓮の実や胡椒の実を食べてみた生徒もいた。

生徒の 感想

- ▶ イメージと違っていたのは、思った以上に首都が都会だったこと。
- ▶ 料理の写真が印象に残った。学校に行けない子どもがいることを、あらためて実感した。
- ▶ マレーシア修学旅行で勉強したところで、近くのカンボジアのことも知れて興味深かった。
- ▶ 一番印象に残ったのは、交通事故の記事が載っている新聞だった。日本ではあまりないが、事故の様子が鮮明に写っていたことに驚いた。
- ▶ 中学に進学する子どもがすごく少ないことに驚いた。



モノランゲージ



物売りをする子ども

◆所感◆

校内ですれ違うたびに、「先生、カンボジアはどうだった？」「次の授業はカンボジアの写真を見たい。」と興味を寄せている生徒達に嬉しさを感じるとともに、彼らに伝えたいことがたくさんありすぎて教材にするものを取捨選択するのが困難であった。道路が舗装されていないイメージを持つ生徒達に対して、そうではない面を持つカンボジアを見せることから始めた授業。日本との文化・風土・社会状況などの違いや、物を通してカンボジアを知ること、私が思っていた以上に生徒達は関心を寄せたということに何より驚いた。さらに、情報量や伝え方は、今後の学習を進めるうえで改善していかなければならないと感じた。

3 時限目：地雷撤去

ねらい…現地で地雷や不発弾の撤去作業に携わっているカンボジアの方々についての学習を通して、その現状と日本がどのように関わっているのかを知る。

◆内容◆

- ① モノランゲージとして、現地で入手した地雷の模型を提示し、何をするものか考えさせる。その後、アキ・ラー氏の写真を見せて、本日の授業の導入とする。（資料3参照）
- ② 中学校の教科書から抜粋した、アキ・ラー氏についての英文を読解させる。内容は、子どもの頃に兵士として地雷を埋めていたが、内戦終了後は自主的に撤去作業をするようになったというもの。
- ③ 英文読解後、アキ・ラー氏について知識を深めるために、地雷博物館で撮影した写真やそこで入手した DVD（アキ・ラー氏が実際に撤去作業を行っている）を見せる。（資料4）
- ④ CMAC での映像や資料館の写真で、日本が撤去作業に援助している現状を知らせる。（資料5）
- ⑤ 最後に、いまだに地雷が埋まっている村で現地の人とハーブを育て、商品化して販売する日本人女性がいることを写真とともに紹介する。



地雷の模型

生徒の感想

- ▶ カンボジアと聞くと地雷というイメージはあったが、まだまだ撤去されていないという現実を知った。
- ▶ 博物館を建てて、多くの人に知ってもらうのはとてもいいことだと思った。地雷を撤去する仕事はとても危険で、勇気のいる仕事だと思う。
- ▶ 埋めるのは簡単だけど、撤去するのはとても困難だ。
- ▶ 日本という平和な国に住んでいる私たちは、地雷に無関係だと思っていた。日本も援助していることを知れた。実際に行ってみたい。
- ▶ 模型になっていた地雷が 600 円で売られていたことを初めて知って驚いた。人を傷つけるものがそんな値段で売られていたことも。
- ▶ 地雷や内戦のことをもっと知りたくなった。

◆所感◆

写真だけでなく実際に撤去作業をしている様子を見ている生徒たちは、初めてみる映像に衝撃を受けているようだった。決して安全だと言えない仕事をなぜやってるの？という疑問を投げかけてきた生徒は、その理由を DVD 中のアキ・ラー氏の話聞いて納得していた。内戦について詳しく話をする時間がなかったぶん分かりやすい説明や、アキ・ラー氏の生き方がうかがえることができたので、地雷博物館で地雷の模型と共に入手できたことは大きい。また CMAC の題材では日本とのつながりを紹介することができ、日本が援助していることを初めて知った生徒たちは、関心を持ってくれたようだ。

地雷が埋まっている村で、現地の人々とハーブを育て、加工し販売しているクル・クメールボタニカル代表・篠田ちひろさんの説明は時間が足りなくなってしまい、本から抜粋した資料は配布するだけに終わってしまった。現地で、偶然会うことができ、少しお話を聞くことができたこともあり、次の機会に教材化したいと思う。

4 時限目：カンボジアで活躍する日本人

ねらい…前回の授業の最後に「地雷」を通して、現地で活躍する日本人女性を紹介したが、本時はあとお二人の方を紹介した。ただ援助をするだけでなく、現地の人々が自立して生活できる基盤を築いていच्छることに注目させたい。また、日本は援助する側だけでなく援助される側でもあることも伝えたい。最後に、「大切なもの」の交流にふれ、お互いの「大切なもの」が何年後も持続していくために、私たちになにができるのか考えさせたい。

◆内容◆

- ① IKTT で染色体験をしたハンカチを見せて染色の過程をたずねた。
- ② 染色の過程を写真で見せるとともに、村の様子・生地織り方・色を作り出す植物・蚕を養殖している様子と、このクメール織物の伝統復興に尽力されている森本喜久男さんの紹介をした。
- ③ 2人目はワット・ポー小学校で音楽を教える活動をしている田中千草さんを紹介した。小学生たちが楽器の演奏や歌を歌う様子を見せた。
- ④ 東日本大震災に関わる新聞記事を生徒に配布した。この記事は、カンボジアのある村から義援金が届いたという内容だ。また、CJCC でのお祈りの様子を撮った写真を見せると、「東日本大震災で被災された方々のために、折りをしているのでは？」とすぐに気が付いた。（資料6）
- ⑤ CJCC で学生たちが描いてくれた「大切なもの」の映像を見せた。
- ⑥ 自分たちの描いた「大切なもの」とカンボジアの学生の「大切なもの」を比べて、どう思ったかを尋ねた。また、持続可能な開発を考えさせるにあたって、お互いの「大切なもの」が10年後も、20年後もずっと続いていくには何ができるのかを考えさせた。



染色体験のハンカチ



田中千草さん



CJCCの学生の「大切なもの」

生徒の感想

- ▶ 東日本大震災のために義援金を届けていたのは初めて知って驚いた。カンボジアと日本は繋がっている。
- ▶ 援助しているだけでなく、助けられてもいることが知れた。
- ▶ 自分たちが描いた「大切なもの」と現地の学生の「大切なもの」は共通するものが多い日本語をととても勉強されているのがわかった。日本が好きなんだな。
- ▶ ワット・ポー小学校の子どもたちの「涙そうそう」を日本語で歌っているのには感動した。田中さんがここまでやってきたことは大変だと思うけど、やれば何かを変えることができるのだと思った。

◆所感◆

本時の授業では、さらに日本との繋がりを学習できるように、現地で活躍する日本人をお二人紹介した。IKTT でのクメール伝統織物では、村の様子や色を森に生育している自然のものから作るということに興味を持っていた。特に、蚕を育てていることを伝えと、この織物は、絹の糸を買ってくるのではなく、一から全て村の人々が行っているということに感動していた。

ワット・ボー小学校の子どもたちの演奏や、CJCC の学生が日本語で「大切なもの」を紹介している様子からも、生徒達はカンボジアと日本の繋がりを感してくれたようだ。また、お祈りの写真や義援金の新聞記事を見せることで、お互いの国が助け合っていることも伝えることができた。

お互いの「大切なもの」がこれから何年も残っていくためには、自分たちに何ができるのかを考えさせる活動は、授業の感想と合わせて書かせるにとどまった。今後の授業で発展させていく。

4. 成果と課題

今回の学習を通して、生徒達は世界に目を向ける機会となり、積極的に学習にのぞんでいたように思う。カンボジアと日本の繋がりを学習しながら、異文化について学ぶだけでなく、日本、そして自分自身を振り返る機会にもなっていたようだ。

国際協力の現場で見てきたものは、どれも生徒達に伝えたいものばかりだった。そのため、毎回の授業で使用する写真や映像を通して伝えることが主になってしまい、じっくり考えさせる活動が少なかった。今後はこの4回の授業をふまえたうえで、「持続可能な開発とは何か?」「私たちにできることは?」と深めていきたい。

授業で扱った内容は一部で、教材化していないものもある。生徒たちは「地雷」のイメージが強く、そのため「地雷」について学習することにしたが、そこから内戦⇒平和学習へ発展させたり、物売りをしていた子どもから児童労働について学習することを考えたが実践には至らなかった。今後は、生徒・学校・地域の実態にあうような教材作りも目指したいと考えている。

参考文献・資料 『アジアに花咲けなでこたち』 たかぎなおこ & NHK 取材班
『アキラの地雷博物館とこどもたち』 アキ・ラー 編集
毎日新聞 2011 年 4 月 16 日
【ニュース東日本大震災 カンボジア・地雷原の村から義援金とお守り】

参考ホームページ URL JICA カンボジア <http://www.jica.go.jp/cambodia/index.html>

資料①

子どもたちが作っている



作業の様子

資料②

6 これは何をしているところ?



識字教室

資料③

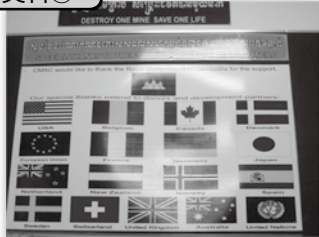


アキ・ラー氏

資料④



資料⑤



資料⑥



2011年3月27日ラップバット